



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
 代表：千葉茂樹
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内
 TEL 03-3479-3941 E-mail: info@signis-japan.org
 http://signis-japan.org/

今年の夏は、各地で起こっている集中豪雨による被害、連日の猛暑と徐々に日本国内が熱帯化しているのを実感するような日々となっています。人は愛を持って生き、愛を与えることで生きる糧を得られるといえます。すべての人が愛に生き、弱き者を助けるマリア様の心が備わるように祈りつつ「タリタ・クム！ 15号」をお届けします。

ニュース 第37回 カトリック映画賞の授賞式と上映会が行われました

ドキュメンタリー映画「隣の人」が第37回日本カトリック映画賞に選ばれ、その授賞式と上映会が去る6月22日、川崎市アートセンターで行われました。ある児童養護施設の日常を8年間にわたって記録したこの作品は、子どもたちと保育士たちの、血縁のない「家族」の生活を見つめています。「本当の家族って何だろう」「隣人とは？」という極めて重要な問いを映画は観客に投げかけています。授賞式には、千葉茂樹監督（シグニスジャパン会長）、晴佐久昌英神父（同・顧問司祭）、幸田和生司教（同・顧問司教）も出席、上映後は刀川和也監督、菅原哲男施設理事長そして晴佐久昌英神父の鼎談が行なわれました。「どんな時にも隣にいるよ」そうしてくれる存在を子どもたちだけではなく、わたしたちもまた痛切に求めていることなどが指摘され、多くの来場者の共感を呼んでいました。（鈴木）



『SIGNIS JAPAN 感謝ミサ&交流会』

“神のよいしらせ”を少しでも伝えられたらという思いで始まったシグニスを今まで続けてこられたことを感謝するとともに、それをサポートしてくださる賛助会員の方々のご支援に感謝を込め、第1回目となる集いを7月13日麹町教会のザビエル聖堂でおこないました。当日は暑いにも関わらず30名が集まり、顧問の晴佐久神父司式のミサ、続いてヨセフホールで交流会を開きました。お説教で、“ミサは神さまが愛するわが子に直接語りかけ、触れてくれる現場。だからこそ、私たちは力をもらい、安心する。それが信仰の喜びで、最終的にすべての人をミサに招くために福音を告げている。福音を語るといふ使命をもらっているキリスト者の尊さ、福音を伝えると真剣に考えている私たちは神に選ばれた尊い仲間たちです”と、勇気づけられました。交流会ではシグニスの活動を紹介し、参加の一人ひとりが思いを語り合い、いい時間を過ごしました。みなさまも賛助会員になりませんか!? 詳細は“賛助会員になってください!”をご覧ください。（谷口）



東アジアプロジェクト参加報告

6月7～9日、東アジア各国（韓国、香港、台湾、マカオ、日本）のシグニスが集まったシンポジウムが、ソウルで開催され、シグニスジャパンからも3名が参加しました。テーマは「平和の為のメディア / 弱い者に目を向ける / 移住労働者」。参加国は、弱い立場に置かれる事の多い、それぞれの国での移住労働者の現状と、メディアや教会の取り組みについて発表しました。



日本からもいくつかの事例を発表させて頂きました。その中の一つとして、教会内で「多文化共生」を実現している、清瀬教会と所沢教会の方々を、取材した映像を上映したのですが、大きな反響がありました。この二つの教会の信徒の方々の生き活きた姿が、海外の方々にとって、見ていて楽しくなる光景だったようです。

日本の教会にとって、「多文化共生」は恵みである事を実感すると同時に、自分たちの周りにある当たり前の幸せの大切さを、実感した時間でした。それを外に発信する事が、今回の私たちシグニスの役割であったのだと思います。

※今回のシンポジウムの報告は、「福音宣教8・9月合併号」（オリエンズ宗教研究所刊）に掲載させていただきました。（杉野）

インターネットセミナー交流会のお知らせ

秋のインターネットセミナー交流会は、東京を飛び出し、神奈川県平塚市にあるカトリック平塚教会での開催が決まりました。神奈川第6地区の全面協力のもと、行われます。11月9日（土）13時半受付開始、14:00～15:00 レポート、15:00～16:00 教会ホームページ紹介の後、20分間の休憩を挟んでディスカッションが行われます。その後、同じ会場で懇親会も予定しています。詳細は改めてお知らせいたしますが、皆さんのふるってのご参加をお待ち申し上げます。

会員紹介「真の豊かさへのパイロットに」

藤崎智之

カトリック中央協議会・広報から「団体会員」として、SIGNIS JAPAN とかわかりをいただいています。あれは2009年の2月、底冷えのするとても寒い冬の日でした。当時の上司の命により「日本カトリック映画賞」の作品を決める選考上映会のため、東京のカトリック高円寺教会にうかがったのがSIGNISとの初めての出会いでした。当日、会員は午後3時からの上映会に参加すればよかったのですが、私はそのことがよく分からず午後1時の役員だけの集まりに顔を出してしまい、突然の闖入者にギョッとした皆さんの顔がなぜか印象に残っています。あれから4年。毎月開かれる「定例会」、「日本カトリック映画賞授賞式&上映会」、春に開催される年次総会、年に2度の「インターネットセミナー」、不定期に開かれる「著作権セミナー」などなど、若い(?)メンバーの皆さんのバイタリティーとエネルギーには、いつも圧倒される思いです。今年の「世界広報の日メッセージ」の中で教皇様は、「物静かな理性の声が過剰な情報の音によって打ち消されて注目されず、その代わりに、より巧妙に自己主張する方が注目されることがある」とソーシャル・ネットワークのはらむ危険を指摘しています。熟慮よりも早さが、深さよりも浅薄さが、慎みよりも空騒ぎが、静けさよりも騒音が受ける今日にあって、SIGNIS JAPANの発信するメッセージが「真の豊かさ=神」へのパイロット(水先案内)になってほしいと願う今日このごろです。

(カトリック中央協議会・広報)



お勧め映画紹介 イーグル・ベルイマン生誕 95 年記念上映

井手口 満

(聖パウロ修道会)

イングマール・ベルイマン生誕 95 年を記念して代表作の3本が上映される。

10年間の遠征を終えた十字軍の騎士、アントーニウスとその従者ヨンスは、海岸で朝を迎える。その時、死神がアントーニウスに近づいて来た。彼は、死神にチェスを挑み、対局の間は死ぬのを待ってくれと頼む。ようやく故郷の村に近づくが、そこはペストの蔓延に怯える村人がいた。アントーニウスは、村の教会に入り司祭に、神の存在に対する苦悩を語るのであった。『第七の封印』

孤独な老医師イーサクは、長年の功績を認められ名誉博士号を受賞することになり、息子の嫁マリアンと共に車でルドン大学へ向かう。途中イーサクが青年時代の夏に家族と過ごした邸宅に立ち寄り、庭に生える“野いちご”を見て、自分の恋人のことを思い出す。ふと我に返った彼の前に恋人そっくりの女性サーラが現れ、イタリアへ行くので途中まで車に乗せてほしいと頼むのであった。再び、イーサクとマリアンそして、サーラと彼女の2人のボーイフレンドの旅が始まった。『野いちご』

熱心なカトリックの信仰の中で育てられたテーレの一人娘カーリンは、両親の言いつけで教会にローソクを届けに行く途中羊飼いたちに乱暴されて殺される。

彼らは、カーリンの帰りを待つ家族のもとに、一夜の宿を乞い、妹のものと偽ってカーリンの晴れ着をテーレの妻に売りつける。娘の死を知ったテーレは、彼らに復讐を誓う。『処女の泉』

今回、牧師の父親の影響を受け、“神とは何か”、“信仰とは何か”というテーマが色濃く表された3本が公開される。



7月20日より渋谷ユーロスペースにて4週間限定上映 (<http://www.bergman.jp/3/>)

賛助会員になってください！

私たち SIGNIS JAPAN の活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年に1度、賛助会員のための感謝のミサを東京地区で予定しています。詳細が決定いたしましたら、賛助会員になっていただいた方にご連絡させていただきます。年会費は一口3000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、銀行口座または郵便振替口座にお振込をお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹



2013年7月13日行われた感謝ミサ後の集合写真